

学クラ新聞

第17号

すべての生徒に学習機会を保証する！

～ 大阪府 大阪市立築港中学校 ～



大阪市立築港中学校では、「わかる喜び、できる楽しさを実感できる授業」を目指し、授業改善に取り組んでいます。その中で、『みんなの学習クラブ』を活用することで、一斉画一的な授業から脱却し、生徒が自学自習でできる力の育成に取り組んでいます。授業での活用だけでなく、不登校の生徒や特別支援学級の生徒、さまざまな家庭環境の生徒に対して、学習機会の保証、学力向上のツールとしても活用しています。

主な活用シーン

- ・ 授業の演習
- ・ 放課後学習
- ・ 家庭学習

いつでも自由に使えるタブレットとプリンター／紙に書いて学習

築港中学校では、ICT機器を効果的に活用した授業の工夫・改善に取り組みと同時に紙に書く学習も重要と考え、各教室にプリンタを設置し、生徒が休み時間などでも、いつでも自由に使える環境を整えています。タブレットはおおよそ2人に1台あります。授業で活用する際は、クラスを単純2分割にし、少人数授業を行います。



タブレットは学習室にあり、いつでも自由に活用することができます。



授業の始まる前に、タブレット端末を取りに行き、『みんなの学習クラブ』に個人IDでログインします。



生徒はタブレットであらかじめ、印刷したいプリントを選び、プリンタのケーブルと接続して印刷します。

先生の活用／数学での授業の取り組み

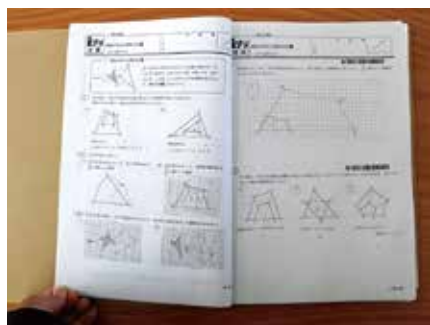
◆先生からもプリント配付

授業の演習プリントとして、iPDRを先生が配付します。iPDRの内容を解説する際は、先生が『みんなの学習クラブ』にアクセスしプロジェクターを使つて問題を投影しています。



◆iPDR・定着・標準は提出課題

数学ではiPDR・定着・標準を提出課題にしています。生徒は普段からiPDRのプリントをファイルに綴じておき、定期テスト後提出します。テストにも類題を出題するなど、生徒が主体的に学ぶ仕組みをつくっています。



一斉画一的な授業からの脱却をめざした取り組み

前半の一斉授業後、プリントを配付

2年生の数学の授業では、前半の一斉形式の授業の後、全員にiプリを配付します。先にiプリを一枚、配付しておくことで、プリントが混み合いにくくなります。



授業後半では、生徒同士の学び合い

授業後半、まずはiプリで授業内容の演習をします。班で「まなボード」等を活用し、生徒同士で教え合いながら学習しています。先生は数学が苦手な生徒への支援も行き届きやすくなりました。



答え合わせ／次のプリントを印刷

iプリが終わった班からタブレット上で解答を表示し、答え合わせをします。その後、定着・標準・発展の中から次のプリントを印刷し、それぞれのペースで学習を進めていきます。



3年数学／習熟度の班で学習

3年生の授業後半では、3段階の習熟度別に班を分けて学習します。Aグループは先生と、Bグループはiプリを中心に、Cグループは入試問題などの難しい問題にチャレンジしています。



Aグループは先生と丁寧な内容を確認していきます。



Cのグループは関連する入試問題から難しい問題にチャレンジします。

英語…習熟度に応じた学習

英語の授業後半、演習のプリントが早く終わった生徒から、プリントを自分で印刷して答え合わせまで行います。理解の差が激しいクラスの中で、どんどん学習したい生徒が主体的に学習を進めることができます。



活用してよかったこと

自分で選ぶとやる気がアップ

授業の中で自分で印刷し、取り組むことで、生徒たちのやる気が高まっていると感じています。テスト前には、自習にしたいという生徒もいて、休み時間や放課後にも生徒が積極的に活用しています。

学習がわかるようになり、不登校の生徒の自信に

不登校の生徒は、これまで授業の内容は友だちのノートを写して学習をしていましたが、『みんなの学習クラブ』が導入されてからは、自分のペースで、以前に学習した苦手な単元までさかのぼって解説動画等を何回も見ながら、学習できるようになりました。これまでわからなかったところが、わかるようになったことで、自信を取り戻し、クラスにも入れるようになりました。

担任の先生は音楽が専門ですが、単元項目が教科書に沿っている『みんなの学習クラブ』を活用すれば、専門ではない5教科の学習も一緒に取り組むことができるようになります。



▲プリントをタブレットなどの画面に表示し、ノートで学習しています